

第3種 三石漁港 (北海道新ひだか町)

みついし

三石地区特定漁港漁場整備事業計画

日高西部圏域
流通拠点



三石地域マリンビジョン策定(モデル地域)

現状と課題

- ・陸揚げ岸壁は耐津波性能がなく、接続する道路も液状化対策がされていないため、津波来襲後において、漁業活動が長期間休止するおそれがある。
- ・沖合ではスルメイカの漁場が形成されるため、道内外のイカ釣り外来船が操業しているが、荒天時には外郭施設の不足から港内が擾乱するため、避難要請に応えられない状況である。

港勢 (R1港勢調査)

登録漁船: 90隻
 利用漁船: 109隻
 (内、外来漁船: 19隻)
 属地陸揚量: 1,907トン
 属地陸揚金額: 6.7億円
 主な魚種: サケ類、ブリ類
 組合員数: 76人

◎三石漁港の役割

- ・サケ定置網、採藻、刺網等の沿岸漁業の流通拠点
- ・周辺海域で操業する道内外のイカ釣り外来船の陸揚げ拠点

主要対策

三石地区



主な整備方針

- ・津波来襲後の水産業の早期再開及び地域防災上の海上輸送拠点の確保を図るため、岸壁及び防波堤の耐津波対策を行うとともに、道路の液状化対策を行う。
- ・港内静穏度の向上により、安全に係留できる岸壁を確保するため、防波堤の延伸及び改良を行う。
- ・交通の円滑化と安全を確保し、水産物の出荷体制の効率化を図るため、道路及び用地の整備を行う。

基本事項

全体事業費: 30.5億円
 事業期間: H29~R8

主要な対策①: 防災対策

東日本大震災による津波被害の状況



主要な対策②: 静穏度対策

港内静穏度対策による
漁船の安全確保が必要

